第3種郵便物認可
宮崎日日新聞 2024年

新しい未来へ
宮崎国際大学 開学30周年
Miyazaki International University

④

高校生への講義 好評

中学生には英検対策教室

地域連携

宮崎国際大は約20年前から、県内の自治体や学校、企業などと連携協定を締結してきた。県内の小中高校への出前授業や大学での受け入れを行うほか、自治体の英語教育に関わり、グローバル社会で活躍する人材育成に協力してきた。

好評なのが、高校生が大学を訪れ、講義などを体験する「イングリッシュデイ」。今月上旬には、都城西高フロンティア科2年生39人が参加した。模擬授業では、大学の教員が気候変動や各国の紙幣などについて英語で説明。生徒たちは3～4人の少人数グループに分かれ、仲間と意見交換しながら、疑問に思うことなどを英語で尋ねた。

大学4年生による留学体験談や図書館を中心としたキャンパス内ツアーもあり、締めくくりは、この日身についたことの高校生による英語での発表だった。大路古都寧さん(17)は「最初は乗り気ではなかったが、外国人教員と英語で話しているうちに、苦手意識を克服できた。参加して楽しかった」と話した。

自治体の中でも西都市との関わりは深く、2011年7月に英語力向上をメインにした教育分野での連携協定を締結。22年には産業、観光振興や地域活性化などで幅広く協力する包括的連携協定を結んでいる。

9月には、市内中学生向けに、大学生が英検対策特別講座をスタートした。約1時間、リスニングやライティングなどについて、オンラインで説明を行った。後日には、学生が市内の五つの中学校を訪問し、対面で指導した。市教委担当者は「中学生にとって年齢の近い先輩から直接指導を受けることで、より理解が深まり、学ぶ意欲が高まっている」と効果を口にする。

綾町・綾中では17日、「英語で綾町の魅力を発信しよう」をテーマに、学生らによる特別授業を実施した。子どもの情報発信力向上や、町のPR強化につなげようと町教委と町ユネスコエコパーク推進室の依頼を受けて初開催。授業では中学3年生16人が和気あいあいとした雰囲気の中、学生たちのサポートを受け、町の観光地や特産品などの紹介文を英語で作成した。

同大で地域連携・地域貢献を担当するウォーカー・ロイド副学長は「地域連携は大学を県民に知っていただくいい機会。地域に愛されなければこの大学は存在していけない。これからも強みである英語で協力し、一緒になってさらなる発展を目指したい」と話す。

イングリッシュデイで模擬授業を体験する都城西高生

学生・職員紹介

教育学部4年

黒木 利咲さん(21)

先輩、後輩の垣根なくみんな仲が良く、先生方も気さくに話しかけてくれる。このまま先生方と学生の距離の近い大学であり続けてほしい。模擬授業を何度も行うことで他の学生の素晴らしい面、自分に足りない部分に気づくことができた。そのため、教員採用の2次試験でも自然体で臨むことができた。県内の学校で働く予定で、楽しく分かりやすい授業をすることを心がけ、昼休みも一緒に遊べる先生になりたい。